

## 典型的な里地里山の選定における生態系ネットワークの配慮について

典型的な里地里山の選定手順においては、「最終候補地について、可能であれば生態系ネットワークに配慮して区域等を調整する」ことを例示しています。しかし、「生態系ネットワーク」の概念が必ずしも理解しやすいものではないため、この「生態系ネットワークの配慮」が選定を円滑に進めるにあたっての妨げとなることも考えられます。

そこで、選定にあたっての生態系ネットワークへの配慮の考え方や配慮の仕方について、以下のとおり例示することとします。

なお、生態系ネットワークへの配慮については地域が独自に検討した考え方等により配慮することでも十分であるため、必ずしもこの考え方等に沿う必要はないことを申し添えます。

### 典型的な里地里山の選定における生態系ネットワークの考え方

「生態系ネットワーク」には様々な考え方がありますが、ここでは「一定の空間スケールでの生態系や種のつながり（物質、個体、遺伝情報などのやりとり）」と考えることとします。

典型的な里地里山を選定するにあたって「生態系ネットワーク」に配慮するのは、各地域の里地里山において生態系ネットワークが維持・創出されることが重要であり、また「生態系ネットワーク」に配慮することによって、選定された各地域の典型的な里地里山の保全と活用に資すると考えられるからです。この趣旨を踏まえると、選定された典型的な里地里山における里地里山活動を通じて、地域の生態系や種の生態系ネットワークの維持・創出が可能となるよう配慮することが望ましいこととなります。また、生態系ネットワークに配慮することで、里地里山の選定、活用する上で特に配慮すべき場所や環境要素の特定にあたり、保全・再生すべき場所や環境要素の優先度を比較することが可能であり、これを保全・活用を効果的に進めるにあたって参考にすることが望ましいこととなります。

このことを踏まえますと、典型的な里地里山の選定にあたっては、①指標とする生態系・種、②空間スケール、③空間配置の3つの観点について配慮することが望ましいこととなります。ただし、各観点は独立で検討するものではなく、相互に関係していることに注意が必要であります。

なお、これら3つの観点からの配慮の仕方の例については表V-4を参照頂き、また、これを踏まえた手順を図V-5に提示することとします。

表V-4 生態系ネットワークの概念と配慮の仕方の例

観点	①指標とする生態系・種	②空間スケール	③空間配置
配慮の考え方	各観点を抽出した理由	生態系ネットワークを維持するためには、活動範囲や指標とする生態系・種に応じて、適切な空間スケールを想定する必要がある。	生態系ネットワークを維持するためには、生態系や種の生息域が適切に配置されている必要がある。
	検討すべき点	里地里山活動の実施範囲、指標とする生態系・種に応じて、適切な空間スケールを検討する。	コア、バッファ、コリドー、ステップストーン等の役割を持つ地域がどのような配置をしているかを検討する。
	適切なネットワーク構築の手がかり	実際の保全活動にあたっての利用可能性を考慮すると、 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 保全や生態に関する知見が得やすいもの</li> <li>➢ 保全目標となりうるもの（フラッグシップ種等）</li> <li>➢ 環境アセスメントにおける注目種の選定の考え方（上位性、典型性、特殊性）</li> </ul> 等の観点からモニタリング可能な1～数種類を選定する。	適切な空間配置は、指標とする生態系・種の分布範囲、最小生息可能面積、移動の方法（飛ぶもの、地上を歩くもの、水中を泳ぐもの）、移動可能な距離などが基準となる。
配慮の仕方の例	里地里山活動地域の保全対象の1つが小型サンショウウオであれば、活動地域内や周辺での小型サンショウウオの産卵地（水田・ため池などの止水環境）と成体の生息地（森林）が空間的に隣接し分断しないように配慮する。	里地里山活動の実施範囲が市町村レベルであれば、それを基準として、その下位（活動地域内部）、および上位（活動地域が含まれる地方スケール）の生態系ネットワークを配慮する。	里地里山活動地域の実施範囲が、自然生態系のバッファやコリドーに当たる地域であれば、活動地域がバッファ・コリドーの機能を促進・向上させるものであるかを配慮する。
参考事例（表V-5参照）	事例1：上位種・フラッグシップ種としてトキ・コウノトリ 事例3：水田を産卵地として利用する琵琶湖の淡水魚類 事例4：指標種として大型哺乳類、猛禽類、ガン類、海鳥、ウミガメ類、海棲哺乳類など、希少種、多様な生態系 事例5：森林生態系や貴重な動植物が生息生育する保護林 事例6：都市に生息可能で知見が得やすい種としてのコゲラ	事例1：地方レベルの計画 事例2：都道府県レベルの計画 事例3, 6, 7：大字レベルの計画 事例4, 5：国レベルでの計画	事例2：コア、コリドーなどの役割を持つビオトープの配置の設定 事例4：全国レベルのコア・バッファ・コリドーの設定、ネットワークの現況図・将来図の作成 事例5：保護林の連結を図るための「緑の回廊」の設定 事例7：水域、河口部、周辺樹林地等との連携、及び公園等のビオトープの配置と設定



図V-5 典型的な里地里山の選定における生態系ネットワークの配慮の手順（例）